

領 域	統合分野(看護の統合と実践)	開講時期	2年前期
科目名 (単元名)	医療安全と看護	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①蒲池 志穂 (別府医療センター・医療安全管理係長・看護師24年) ②大西 洋世 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師21年) ③小泉 尚子 (大分赤十字病院・看護師長・看護師35年) ④大矢 健介 (別府医療センター・診療看護師・看護師16年) ⑤宮崎 良尚 (別府医療センター・救命救急認定看護師・看護師15年) ⑥調整中		
<科目目標> 医療事故増加の現状や法律及び医療安全に関する基礎的知識を理解し、シミュレーション体験を通して自己の傾向を知るとともに内省する力を育み、リスク感性を磨く。災害看護に必要な基礎的知識を学び、生活者である被害者へどのような看護が必要かについて理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1. 医療事故増加の背景 1) 看護業務の特性と事故 (1) 多重業務、業務の中断と分担     (2) チーム医療と事故 2. 医療安全に関する法律 1) 医療事故と医療過誤 2) インシデントとアクシデント 3) 医療事故に関する法的責任 4) 注意義務 (結果予見義務と結果回避義務) と説明義務	講義	①
3	3. 医療安全に関する基礎知識 1) 医療安全の考え方の変化 2) 医療安全に関する用語の定義 3) 患者影響レベル指標と報告制度 4) 事故発生のメカニズム	講義	①
4	4. 事故の概要と種類 5. 多職種に共通する間違いと発生要因	講義	①
5	6. ヒューマンエラーの対策 7. 医療事故防止対策 1) 事故分析 2) 具体的な事故分析手法 ・根本原因分析 (RCA) ・フレームワーク型の分析 (SHELL、mSHELL、PmSHELL)	講義	②
6	3) 事故分析の実際 根本原因分析法：RCA を用いて	演習	②
7・8	8. 実践編 1) 危険予知トレーニング (KYT 手法を用いて) 2) インシデントレポート定性分析：事件事例を用いた分析 (与薬、転倒など) (Pm-SHELL モデル)	演習	②
9・10	9. 災害看護 1) 災害の定義と種類     2) 災害の種類 3) 災害サイクルと医療ニーズ 4) 災害時における法制度や社会のしくみ 5) 災害看護の活動の場     6) 災害時における看護師の役割 7) 災害時の看護活動の実際	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
11	8)別府医療センターにおける災害への体制	講義	④
12・13	9)災害時の看護活動 (1) トリアージの考え方 (2) 援助の実際：心肺蘇生法、意識状態の観察(GCS、JVS)など	演習	⑤
14・15	10. 国際看護 国際看護では、看護の国際協力の組織・しくみを理解する。また、国際保健の基本理念を把握し、国際看護活動の展開と在日外国人への看護の実際を理解する。 1)看護とグローバル化 2) グロバリヘルスの概念 3) 国際協力の仕組み 4) 国際救援援助活動における看護 5) 在日外国人への看護の実際	講義	⑥
<p>授業の進め方</p> <p>医療事故分析については実際のインシデントレポートを用いて定性分析を行うことにより、医療事故の背景となる要因について理解する。</p> <p>講義、演習、シミュレーションモデル等による体験学習を通して学ぶ。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 統合分野 医療安全 (医学書院) ①②</li> <li>2. 系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学(医学書院) ③④⑥</li> <li>3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論⑤</li> </ol>			
<p>評価方法</p> <p>課題レポート、終講試験、授業参加状況等により総合的に評価する。</p>			

領 域	統合分野(看護の統合と実践)	開講時期	3年前期
科目名 (単元名)	看護マネジメント	単位数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①岡 ルミ (別府医療センター・副看護部長・看護師35年) ②中釜 昌代 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師22年)		
<科目目標> 看護の提供における人的資源(ヒト)、環境や医療機器等の物的資源(モノ)、財的資源(カネ)を有効に利用していくためのマネジメントおよび看護職者の教育とキャリア開発の必要性・教育形態・システムについて理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 看護におけるマネジメント 1) 看護とマネジメント (1) マネジメントとは (2) 看護マネジメントの定義 (3) 看護におけるマネジメント (4) 看護におけるマネジメントの変遷 (5) 看護のマネジメントが行われる場 2) 看護ケアのマネジメント (1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 (2) 患者の権利の尊重 (3) 安全管理 (4) チーム医療 (5) 日常の看護業務におけるマネジメント	講義	①
2	3) 看護サービスのマネジメント (1) 看護管理の定義 (2) 看護管理の目的 (3) 看護サービスマネジメントの対象と範囲 (4) 継続看護、入・退院調整 (5) 他職種との協働 (6) 病院機能評価 4) 組織目標達成のマネジメント (1) 理念の形成と浸透 (2) 現状分析 (3) 看護の組織化 (4) 看護部門組織の職位と職務規程	講義 演習	①
3	5) 協働のためのマネジメント (1) 人材フローのマネジメント (2) 看護ケア提供システムと看護単位 (3) 看護単位の機能と特徴 (4) 重症度、医療・看護必要度 (5) 人事・労務管理 (6) 労使関係管理 (7) 物的資源管理	講義	①
4	6) 情報のマネジメント (1) 情報の種類 (2) 情報の公開 (3) 個人情報の保護と管理、診療情報等の開示 (4) 診療記録等の電子化と医療情報システム 7) 看護を取り巻く諸制度 (1) 医療制度 (2) 診療報酬制度 (3) 看護政策と行政	講義	①
5	8) マネジメントに必要な知識と技術 (1) 組織とマネジメント (2) リーダーシップとマネジメント (3) 組織の調整 (4) 組織と個人	講義 演習	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
6	1. 看護職者の教育 1) 法的根拠 ・保健師助産師看護師法 ・看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・看護業務基準                      ・看護者の倫理綱領 2) 看護職の教育制度 3) 基礎教育課程と継続教育 (1) 基礎教育課程 (2) 継続教育 ①自己学習・現任教育 ②専門看護師制度、認定看護師制度・特定行為研修制度	講義 演習	②
7	4) 看護職のキャリアマネジメント (1) 看護職のキャリア形成 ①看護職の技能修得段階                      ②クリニカルラダー (2) キャリア開発 (キャリアディベロップメント) 5) 新人看護職員の教育 (1) 新人看護職員における問題 (2) 新人看護職員研修ガイドライン 6) 教育方法 (1) OJT と OFF-JT	講義 演習	②
<b>授業の進め方</b> テキストの内容と看護現場での状況や事例を紹介しながら授業をすすめる。講義を中心に進める。看護制度、看護職員の教育について学習し、自身の課題や卒業後にどうあるべきかグループワークを通して考える。			
<b>テキスト</b> 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理(医学書院)①②			
<b>評価方法</b> 筆記試験			

領域	統合分野(看護の統合と実践)	開講時期	3年前期																																										
科目名 (単元名)	看護実践演習 (看護技術演習)	単位数 (時間数)	2単位(45時間)うち30時間																																										
講師 (所属・職位等・実務経験)	山田 祐子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師25年) 松本 亜由美 (別府医療センター・副看護師長15年) 濱岡 萌 (別府医療センター・看護師3年)																																												
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>科学的根拠に基づいた看護実践のプロセスを通じて、看護技術の意義や看護実践における知識・技術・態度のあり方について自己の課題を明確にする。また、倫理的意思決定のプロセスを支える理論とその方法を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>1. 患者Aの看護実践 1) 事例紹介 2) アセスメント</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3) 看問題・看護診断の検討 4) 優先される看護問題に対する看護計画の立案</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5) A氏に必要な看護技術の実践・評価</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>2. 患者Bの看護実践 1) 事例紹介 2) アセスメント</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3) 看護問題・看護診断の検討 4) 優先される看護問題に対する看護計画の立案</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5) B氏に必要な看護技術の実践・評価</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3. 複数患者を受け持つための情報収集と時間管理</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>4. 患者A・患者Bの優先度をふまえた行動マネジメント計画の立案</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>5. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の実施①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>6. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の評価①</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の実施②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>8. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の評価②</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>9. これまでの自己の看護の振り返り</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1・2	1. 患者Aの看護実践 1) 事例紹介 2) アセスメント	講義 演習	3	3) 看問題・看護診断の検討 4) 優先される看護問題に対する看護計画の立案	講義 演習	4	5) A氏に必要な看護技術の実践・評価	演習	5・6	2. 患者Bの看護実践 1) 事例紹介 2) アセスメント	講義 演習	7	3) 看護問題・看護診断の検討 4) 優先される看護問題に対する看護計画の立案	講義 演習	8	5) B氏に必要な看護技術の実践・評価	演習	9	3. 複数患者を受け持つための情報収集と時間管理	演習	10	4. 患者A・患者Bの優先度をふまえた行動マネジメント計画の立案	演習	11	5. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の実施①	演習	12	6. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の評価①	演習	13	7. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の実施②	演習	14	8. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の評価②	演習	15	9. これまでの自己の看護の振り返り	演習
回	授業内容	授業方法																																											
1・2	1. 患者Aの看護実践 1) 事例紹介 2) アセスメント	講義 演習																																											
3	3) 看問題・看護診断の検討 4) 優先される看護問題に対する看護計画の立案	講義 演習																																											
4	5) A氏に必要な看護技術の実践・評価	演習																																											
5・6	2. 患者Bの看護実践 1) 事例紹介 2) アセスメント	講義 演習																																											
7	3) 看護問題・看護診断の検討 4) 優先される看護問題に対する看護計画の立案	講義 演習																																											
8	5) B氏に必要な看護技術の実践・評価	演習																																											
9	3. 複数患者を受け持つための情報収集と時間管理	演習																																											
10	4. 患者A・患者Bの優先度をふまえた行動マネジメント計画の立案	演習																																											
11	5. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の実施①	演習																																											
12	6. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の評価①	演習																																											
13	7. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の実施②	演習																																											
14	8. 事例A・Bの優先度をふまえた行動マネジメントに基づいた看護の評価②	演習																																											
15	9. これまでの自己の看護の振り返り	演習																																											
<p>授業の進め方</p> <p>本単元では、看護実践や看護技術に対する学習の総合的な評価と卒業時の看護技術評価の意味を含むため、事例に応じた看護が実践できるように進めていく。患者の個別性に応じた看護を実践するためには、事例患者のアセスメントが重要である。本単元を学習する時期は3年次であるため、事例展開は個別で行っていくが、事例の共通理解ができるよう、各自がまとめたレポートを基に学習の共有をはかっていく。実施にあたっては、基本動作についての練習を確実にこなったあと、個別の条件が技術にどう影響するかを考えながら実施できるようにする。事例患者のイメージができるよう一部デモストを取り入れながら実践練習を積み重ねていくようにする。また、演習においては、グループでの検討会を行うことでより患者の状況に応じた看護が実施できるようにする。</p>																																													
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理(医学書院) *上記以外のテキストにおいては、講義開始時、指示する。</p>																																													
<p>評価方法</p> <p>筆記試験・レポートにて総合的に判断する。</p>																																													

領域	統合分野(看護の統合と実践)	開講時期	3年前期																								
科目名 (単元名)	看護実践演習 (看護倫理)	単位数 (時間数)	2単位(45時間)うち15時間																								
講師 (所属・職位等・実務経験)	中釜 昌代 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師22年)																										
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>科学的根拠に基づいた看護実践のプロセスを通じて、看護技術の意義や看護実践における知識・技術・態度のあり方について自己の課題を明確にする。また、倫理的意思決定のプロセスを支える理論とその方法を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護専門職としての倫理の必要性 3) 看護倫理の歴史的推移 4) 看護師の価値観 2. 看護倫理のアプローチ 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 看護倫理に関する重要な概念 1) ケアリング 2) アドボカシー 3) パターナリズム 4. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5) 看護専門職組織の役割と倫理綱領 5. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー1</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー2</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー3</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護専門職としての倫理の必要性 3) 看護倫理の歴史的推移 4) 看護師の価値観 2. 看護倫理のアプローチ 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理	講義	2	3. 看護倫理に関する重要な概念 1) ケアリング 2) アドボカシー 3) パターナリズム 4. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務	講義	3	5) 看護専門職組織の役割と倫理綱領 5. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」	講義 演習	4	5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー1	演習	5	5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー2	演習	6	5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー3	演習	7	6. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題	講義
回	授業内容	授業方法																									
1	1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護専門職としての倫理の必要性 3) 看護倫理の歴史的推移 4) 看護師の価値観 2. 看護倫理のアプローチ 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理	講義																									
2	3. 看護倫理に関する重要な概念 1) ケアリング 2) アドボカシー 3) パターナリズム 4. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務	講義																									
3	5) 看護専門職組織の役割と倫理綱領 5. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」	講義 演習																									
4	5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー1	演習																									
5	5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー2	演習																									
6	5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討ー3	演習																									
7	6. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題	講義																									
<p>授業の進め方</p> <p>看護倫理を考える上で基礎となる倫理原則について、歴史的経緯や具体的な看護場面をもとに学習する。また、倫理的ジレンマを抱いた実習での場面を想起し、その場面について4ステップモデルを用いたグループ演習とクラス全体での発表会をとおして倫理的意思決定の方法を理解する。</p>																											
<p>テキスト</p> <p>1. 看護倫理 改訂第2版 (南江堂)</p>																											
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、課題レポート、授業への参加状況により総合的に評価する。</p>																											